

こんしゅう ささ  
今週のこゝば「**奉**げ<sup>る</sup>」

せいしょ ふくいんしょ  
《聖書》ルカによる福音書 2:22-40

ほう けん  
ミサにおける**奉**献

ぎょう せいしょ りょうしん しゅ  
今日の聖書では、両親がイエスを主に  
ささ つた  
捧げたことが伝えられています。これは  
とうじ じん おな りょうしん りつ  
当時のユダヤ人と同じように、両親が律  
ほう き てい したが おこ  
法の規定に従って行なったことです。

わたし く かえ おこ  
しかし、私たちが繰り返し行なってい  
かんしゃ さいぎ  
る感謝の祭儀であるミサでは、イエスの  
しょうがい しゅ ささ り かい  
生涯が主への捧げものであったと理解し、  
わたし しゅ とお  
私たちはパンとぶどう酒のしるしを通し  
じゅうじか し ふっかつ  
て、イエスの十字架の死と復活にあずか  
また なか ほうけん  
っています。又、ミサの中での奉納は、  
わたし かんしゃ さいぎ さんか  
私たちもこの感謝の祭儀に参加し、パン  
しゅ め み とお  
とぶどう酒の目に見えるしるしを通して、  
じぶんじしん かみ ささ い み  
自分自身を神に捧げることを意味してい  
ます。

きゅうやくせいしょ じ だい つみ  
旧約聖書の時代では、罪のとがのつぐ  
どうぶつ ささ  
のいとして、動物がいけにえとして捧げ  
られていました。イエスの死は、このよ  
し  
うないけにえに代るものではありません。  
かし じぶん じゅうじか  
イエスは、弟子たちにも自分の十字架を

にな もと わたし  
担うように求めています。イエスは私  
つみ し  
ちの罪のとがのつぐのいのために死なれ  
たではありません。

まい にち せい かつ ほう けん  
毎日の生活の**奉**献

なか ほうけん じぶんじしん  
ミサの中での奉納において自分自身を  
ささ まいにち せいかつ ささ  
捧げるといふことは、毎日の生活を捧げ  
ることになります。言葉を変えれ  
ひび じぶん じゅうじか にな  
ば、日々自分の十字架を担うといふこと  
です。

じゅうじか し じぶん  
イエスの十字架の死によって自分たち  
つみ  
の罪のとががつぐのわれたのではありません  
ひとびと じゅうじか し ふつ  
せん。イエスは、人々を十字架の死と復  
かつ まね わたし  
活へと招いておられるのですから、私  
じぶん じゅうじか にな ひつよう  
ちも自分の十字架を担うことが必要なの  
です。

まいにち せいかつ なか ふくいん もと い  
毎日の生活の中で、福音に基づいて生  
かんたん  
きるといふことは、簡単なことではあり  
ません。しかし、私たちがミサに参加し  
わたし さんか  
て、繰り返し確認しているように、私  
く かえ かくにん わたし  
ちにはそれを実行する勇氣と力が与えら  
じっこう ゆうき ちから あた  
れているのです。

しゅ ほうけん しゅくじつ たきの  
主の奉献の祝日（滝野）